

# 魔法のプロジェクト 2022

## 最終成果報告書

### 1. 基本情報

- (ア) 報告者氏名:大木洋美  
(イ) 報告書記録日:2023年2月17日  
(ウ) キーワード:環境の把握・相手意識をもち、集団の中で好ましいコミュニケーションの仕方を習得。  
文字の読み書きの困難の背景をアセスメントして、弱さを補完。  
衝動性を抑え、一日程度の計画を立てて、時間を意識しての行動。

### 2. 対象児

小学校第3学年/9歳/注意欠損多動性障がい(AD/HD)

### 3. 活動目的

#### (ア) その活動の当初の目的

昨年度までの「魔法」の導入を対象児とともに受けた成果として、衝動の抑制ができるようになり、自他の安全が担保できるようになってきた。また、周囲の雰囲気に合わせてられなかったり、かかわり方の手順や決まりをふまえていなかったりしたためのトラブルが減ってきた。気持ちが安定して、時間や約束を守ろうという意識がもてるようになり、学習面でも向上が見られてきた。現在は、校内就学支援委員会で、通常級への移行を見据えた経過観察という判断を受けている。本人自身も、交流学习に主体的に参加しているので、その前向きな思いを後押ししていきたい。

(イ) その活動を実施した期間:2020年10月16日から2023年報告書記載日まで

(ウ) その活動の実施者:静岡県函南町立東小学校 大木洋美

(エ) 実施者と対象児との関係:特別支援学級(自閉情緒)担任

### 4. 活動内容と対象児の変化

#### (ア) 対象児の事前の状況

##### ① 生活面・コミュニケーションでの困難

- ・朝や帰りなど、荷物を所定の場所に入れる、提出物を出す、着替えをする、といった流れは分かっているが、周りの様子に気を取られてしまったり、思いついたことを話し始めたりするので、その都度に声掛けや制止を頻繁に受け、それが不愉快で感情的になってしまう。
- ・約束やルール、安全の必要性を理解しているが、衝動性が高いため、安全を確認したり、状況を判断したりすることが難しい。
- ・周囲とかかわりたいという気持ちが高いが、頭に浮かんだことをそのまま口に出してしまうので、冗長的で要点を得ず、話題が転動して分かりにくいものになっている。
- ・相手意識をもつことが苦手で、慣れ親しんだ相手だと一方的に話し、相手の応答に被せて話してしまう様子がみられる。また、相手が不機嫌である場合にも、近づいてかかわろうとするために、トラブルになりやすい。

##### ② 学習面での困難

- ・学習能力の評価 KABC II 習得総合尺度105

語彙尺度115 読み尺度101 書き尺度79 算数尺度109 (2022.5~6)

WISCIV 全検査95

言語理解95 知覚推理93 ワーキングメモリ76 処理速度99 (2021.1.4)

- ・理解、表出ともに談話レベルのやりとりは可能である。読解よりも聴覚的な理解の方が高い。興味関心のあつるものへの語彙や知識が増えて、それを周囲に伝えたい意欲がある。質問に対して、簡潔に適切な回答が

出来るときがあるが、根拠や理由を述べる場面では、余計な情報が多くなりやすい。

- ・語彙、読み、算数は年齢相応だが、書きの能力には遅れが見られる。
- ・書きは、字形のバランスが悪く、マス目を使っても大きさがまちまちである。平仮名、カタカナの特殊音節（拗音・長音）の表記が身に付いていない。漢字の習得も、学年より遅れている。書き順や偏と旁の構成理解が不十分である。
- ・ワーキングメモリ76と、書く作業に必要な情報を一時的に保持する記憶力や、保持した記憶を使って操作する力に弱さがある。そのため、「知覚推理93」あるにもかかわらず、文字を獲得するのに必要な「形を捉える力」「構成する力」が発揮されにくくなっているのではないか。
- ・作文は、課題に沿った内容を思い浮かべて、口頭では表出できるものの、書く速度が遅く、書き間違いが多い。助詞「は・へ」を「わ・え」と書いている。それでも時間を掛けて書き上げようとしている。

以下の記録は、実践当初の対象児の生活記録である。赤で表記した箇所は、不適応の状況にある時間帯である。また、黄色で表記された部分は学習課題に取り組んだ時間である。

1学年													
月日	曜日	服用時刻	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	給食	5時間目	合計	授業時間	集中度	備考	
2020/10/15	木	###	20	25	15	20	ト	45	125	5	25.0	55.6	5校時並み済みもろ+づくり
2020/10/16	金	###	0	10	30	10	○		50	4	12.5	27.8	3校時交流体育ダンス
2020/10/19	月	###	30	20	45	45	◎		140	4	35.0	77.8	34校時交流体育・体育
2020/10/20	火	###	20	30	45	45	▽	30	170	5	34.0	75.6	234校時校外学習「秋祭り」
2020/10/21	水	###	20	不明	不明	不明	▲	30	50	5	10.0	22.2	234校時だけの交流学習
2020/10/22	木	###	0	15	40	15	▲		70	4	17.5	38.9	3校時どんぐり造路作り
2020/10/23	金	###	25	30	45	30	○	40	170	5	34.0	75.6	
2020/10/26	月	###	25	30	45	45	▲		145	4	36.3	80.6	34校時体育
2020/10/27	火	###	25	40	25	20	▽		110	5	22.0	48.9	2校時造路作り
2020/10/28	水	###	45	0	20	45	○	40	150	5	30.0	66.7	4交流体育 5園工
2020/10/29	木	###	0	0	15	15	▲	0	30	5	6.0	13.3	空母探し 品山
2020/10/30	金	###	0	0	運動会	運動会	◎		0	2	0.0	0.0	運動会 応援席で土いじり
2020/11/2	月	###	30	30	35	45	◎		140	4	35.0	77.8	
2020/11/4	水	###	0	15	30	45	○		90	4	22.5	50.0	不審物取り上げで遅れた
2020/11/5	木	###	0	30	35	20	◎	30	115	5	23.0	51.1	不審物取り上げで遅れた
2020/11/6	金	###	30	20	45	10	▽		105	4	26.3	58.3	4校時体育
2020/11/9	月	###	32	30	30	45	▽		137	4	34.3	76.1	4校時体育
2020/11/10	火	###	30	45	30	30	▽	25	160	5	32.0	71.1	2校時園工
2020/11/11	水	###	45	10	25	45	◎	40	165	5	33.0	73.3	1体育 4交流体育 5園工
2020/11/12	木	###	35	30	25	25	△	20	135	5	27.0	60.0	
2020/11/13	金	###	10	10	40	30	△		90	4	22.5	50.0	3交流体育
2020/11/16	月	###	10	30	45	45	▽		130	4	32.5	72.2	34体育
2020/11/17	火	###	15	15	30	20	○	30	110	5	22.0	48.9	1体育 3園工



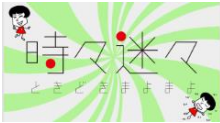
## 行動面での困難

- ・就学前から、多動・衝動性、不注意の特性が認められた。内服開始（2021.10～）後は集中力などの注意面の改善が見られたものの、抑制の弱さから現在も注意はそれやすい。事前に注意点を声掛けして確認しておくことで行動のコントロールは一時的には出来るようになった。しかし、家庭生活では、繰り返し注意された悪戯を興味があれば繰り返しているようだ。
- ・一方、関係性で衝動のコントロールができる場合があり、学校では～、交流学級では～と、行動をコントロールしようとする姿がみられる。注意をうまく配分して、考えて行動することや、過度に集中しすぎないで気持ちを切り替えていく計画性を身に付けていくことが求められる。
- ・給食時には、手つかみで口に運び、一度口に入れたものを出したり入れたり、箸やスプーンを口に入れていたり、食べることよりも感触を味わって過ごす姿が見られた。





## 活動の具体的内容






- ① 場に応じた態度を選んだり、相手意識をもって対話をしようとしたりして、集団の中で好ましいコミュニケーションの仕方を身に付ける。

困難の原因の推測	効果が期待できる手立てとねらい	アプリ・自助具・教材、参考文献	期間や時期
<p>相手意識をもつのが苦手で、他者の心情の理解や状況の認知はあるが、衝動性が勝ってしまう。</p>	<p>日常生活の場面で、それぞれの発言、思いを聞き取りながら、棒人間と吹き出して状況を可視化しながら整理していく。言葉だけだと通り過ぎてしまうものを共有し、「他者の気持ち」に気付くために、「自分の気持ち」に気付く。</p> <p>映像を通して、危険から自分の身を守るために、衝動的に行動するより、結果の予測をしていくほうが過ごしやすいことを知る。</p>	<p>電子メモ・「コミック会話」</p>  <p>NHKforSchool</p> 	<p>日常的に</p> <p>自立活動 2週1回</p>
<p>集団生活の流れやルール認知はできるし分かっているが、調和はできない。</p>	<p>双六ゲームを繰り返してゴールまでの展開がつかめるようになった時点で、「今の選択」が今後どうつながっていくかを予想して判断していくようになる。</p> <p>当初は、キャラクターが親しみやすく内容が簡単なものを使い、慣れてきた時点で、より駒ごとの選択をし、その選択の結果を受け止める中で、結果の予測のスキルを身に付ける。</p>	<p>「ドラえもん人生ゲーム」</p>  <p>「人生ゲームスタンダード」</p> 	<p>自立活動 2週1回</p>


<p>慣れ親しんだ相手であると、自分発信の話題を話し続ける。</p>	<p>周囲も興味関心のある話題について、時間制限をして会話する。「今日のドロップニュースについてだけの思いや考えを話す。」「自分が話したら、相手が話し終わるまできいている。」といったルールを決めて取り組む。</p>		<p>朝の会 毎朝 3分間</p>
<p>他者にも感情があるという認知がなく、自分発信の言動になりやすい。</p>	<p>自立活動の「他者の意図や感情の理解に関すること」に関連付けて、人物の表情などから立場や考えを推測するトレーニングを通して、他者の感情を推測するスキルを身につける。また、番組映像を通して、登場人物の感情の変化に気付く。</p>	<p>「教室で使えるコグトレ」</p>  <p>NHKforSchool</p> 	<p>道徳の時間(10分程度)</p>

② 文字の読み書きの困難の背景をアセスメントして、弱さを補完し、交流授業などの一斉授業で個別支援が必須でなくても取り組めるようになる。

困難の原因の推測	効果が期待できる手立てとねらい	アプリ・番組・教材や教具など	実施期間や時間
<p>文章を読んで内容理解をするよりも、聴覚的な理解の方が高い。 一方で、周りの情報に気が散ると傾聴態度が低下する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の初めに映像と音声による解説や展開によって大体を理解し、その後、教師の説明や文章読解によって理解を深める。</li> <li>手元のiPadで視聴するので、余計な情報が入りにくく、傾聴が継続できる。</li> </ul>	<p>分かる！ 小3算数</p>  <p>NHKforSchool</p> 	<p>・国語や算数、総合的な学習の時間等の 単元当初 10分間</p>
<p>書く作業に必要な情報を一時的に保持する記憶力や、保持した記憶を使って操作する力に弱さがある。</p>	<p>・「よく似た形の区別ができる」「形の全体や細部を正確に把握することができる」「空間的な把握を正確に行うことができる」などの基礎能力を鍛えるトレーニングを行う。</p>	 <p>大阪医科大学 LD センター共同開発</p>  <p>ちびむすドリル</p>	<p>・宿題として、1日1ページを週に4回</p>
<p>書くことへの取り組みはよいが、字形のバランスが悪く、読み取れない字形も</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字を書くときに何に気を付ければよいか、その都度心がける</li> <li>書字は、自分が考えたり分かっていたりしていることを伝えるための</li> </ul>	<p>熱海国際大学言語療法士さん作 文字を書くときの「約束」</p>	<p>書く場面で</p>

ある。相手に伝えるための必然性についての意識が低い。	重要なツールであることを理解する。	 	
書き損じや書き直しが多いため、モチベーションが低下しやすい。	・思いや考えをもつことができ、伝えたい意欲は高いので、筆記だけではない表現方法を取り入れていく。	ロイロノート  	・交流授業の社会・理科・総合・体育などで。
計算能力は定型発達の段階にあるが、数字を揃えて書けない、書いた数字が読めないためミスしやすい。	・自分は分かっているのに、相手や自分に読めない数字を書くことは大きな損失であることを理解する。 ・数字を揃えて書くツールを使うことで、間違いを減らしていく。	カイケツ下敷き 	算数の授業

③ 衝動性を抑え、一日程度の計画を立てて、時間を意識して行動しようとする。

困難の原因の推測	手立てと期待できる効果	アプリ・自助具・教材	期間や時期
内服開始(2021.10~)後は集中力などの注意面の改善が見られたものの、抑制の弱さから給食時に食材や食器での遊びが止められない。	・元々小食であるので、給食の配膳量を減らし、食べきれない食材が食器に残らないようにする。 ・「歯磨き勇者」は、一定時間、画面に本人の顔が映り、歯磨きが上手だとポイントが増えるので、ゲーム感覚で楽しめ、気持ちを切り替えられる。	歯磨き勇者 	業間の休み時間、給食後、
対教師と対保護者との、もしくは教師によって、行動の抑制に格差がある。衝動性の抑制に、相手との関係性が大きく影響している。	・対象児が重きを置いている交流学級の担任(水谷)に、個別に指導や声掛けをしてもらうことで、「水谷先生に褒められたい。」という承認欲求をもち、衝動の抑制をしようとする。 ・予定黑板や交流学級の時間割や放課後デイの計画表などを確認して、一日の生活を見通して臨む。	・予定黑板 ・交流学級の週報 ・放デイ予定	交流学習時 適宜

対象児の事後の変化

① 生活面・コミュニケーションでの変化

【エピソード1】

登校一番しゃべり始めるのを、既に支度が終わって着席している上級生が「支度が終わったら聞いてあげるからね。」と、たしなめる姿が定例化してきて、対象児も(ああ、そうだった。)という様子で、支度に取りかかっている。

【エピソード2】

交流図工の授業では、一斉指導の後机指導の折に、対象児が図工担当教諭に「今は何をやる時間ですか。」とい

う質問を受けるとの報告があった。図工担当教科にとっては、黙って静かに困っていて、実際課題に取り組めていない児童が数人いるので、「困った」「分からない」の意思表示があるのは、大変よいとのことだった。

【エピソード3】

人生ゲームのときに、保険関係の打診がある場面で、「人生何があるか分からないから、車に乗るなら自動車保険、家を買ったら火災保険、でもさあ子供がいらないなら生命保険はいらないよね。」と言っていた。また、職業選択の場面では、「給料日のたびにお金がもらえるから、サラリーマンになる。」と言っていた。

【エピソード4】

登校してから支度が終わって健康出席確認の時間にChromebookのClassroomでドロップニュースを読んでいた。朝の会の話し合う時間では、当初は、自分が知っていることや、そこから想起した自分の体験を話していたが、徐々に、ニュースに関連したことを話せるようになってきた。今週は「台風が来て大雨だったのが急に止んで晴れると、僕は気分が悪くなります。」と発言していた。

【エピソード5】

7月の運動会のペア学年種目では、リレーのスターターとなった。交流学級の担任の「バトンをもらって、走って、渡す」負荷を軽減する配慮で、学級の児童には「～さん(対象児)が遅れた分はみんなで取り返そう」という指導をしてあった。実際は、2番でバトンを渡すことが出来、大いに自己有用感を高めていた。

【エピソード6】

12月の校内就学支援委員会では、「適応が見られるが、就学措置については年単位で慎重に進めていく。」という判断になったが、保護者の強い希望があったため、一日交流を一週間体験してみた。対象児は「困ることはない、楽しい。」と言って、その間支援学級に寄ることなく過ごしていた。1月になって、一日交流二週間体験を計画したが、不適応や危険な場面は見られなかった。

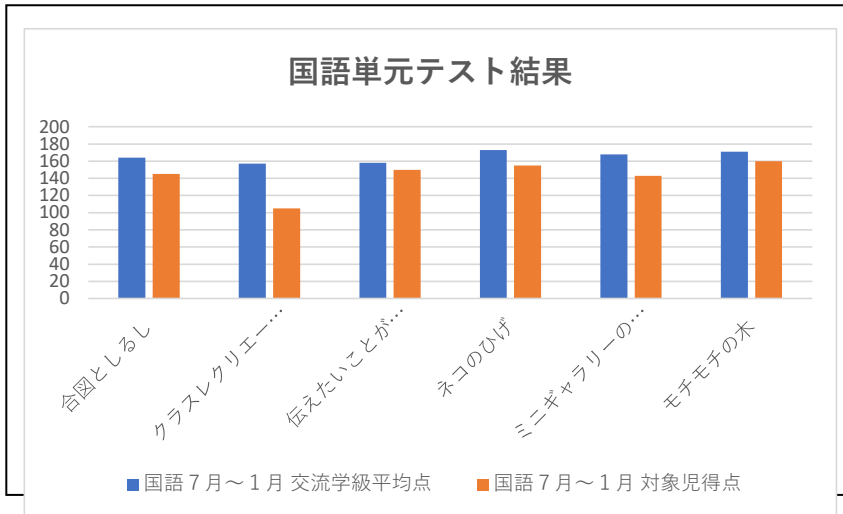
以下は、実践開始1年後の記録である。黄色い表記は、授業に参加して課題に向かえた時間である。ほぼ毎時間安定して過ごせるようになってきている。

R3_2年													
月日	曜日	服用時刻	給食	全休	1時習目	2時習目	3時習目	4時習目	5時習目	合計	授業参加回数	授業参加時間	備考
12月16日	木	7:00	○	歩	40	35	35	45		155	4	38.8	
12月17日	金	6:45	○	歩						0	4	0.0	交流会・校外学習
12月20日	月	7:00	○	歩	40	40	45	35	35	195	5	39.0	
12月21日	火	7:00	○	歩	35	35	45	40	40	195	5	39.0	
12月22日	水	6:50	○	歩	40	40	35	40	35	190	5	38.0	
12月23日	木	7:00	○	歩	35	40	35	35	40	185	5	37.0	
12月24日	金	7:00	○	歩	40	40	45	35		160	4	40.0	
1月6日	木	6:50	○	歩	45	30	30	35		140	4	35.0	14日着床テスト実施練習
1月7日	金	6:45	○	歩	30	25	45	40		140	4	35.0	12日着床テスト実施練習
1月11日	火	7:00	○	歩	40	30	30	45	45	190	5	38.0	23日着床テスト実施
1月12日	水	7:00	○	歩	35	40	35	45	45	200	5	40.0	
1月13日	木	7:00	○	歩	45	25	40	40	40	190	5	38.0	
1月14日	金	7:00	○	歩	25	35	45	40	40	185	5	37.0	1時遅く無気力
1月17日	月	6:50	○	歩	40	45	45	35	40	205	5	41.0	
1月18日	火	6:35	△	歩	35	40	40	45	35	195	5	39.0	
1月19日	水	6:30	○	歩	45	35	35	45	45	205	5	41.0	新運動に参加
1月20日	木	7:10	○	歩	40	35	40	40	35	190	5	38.0	新運動に参加
1月21日	金	7:10	○	歩	35	40	35	45	45	200	5	40.0	熱海病院に通院
1月24日	月	7:15	○	歩	40	40	35	25	45	185	5	37.0	①着床に聴きた
1月25日	火	6:55	○	歩	40	35	35	35	45	190	5	38.0	
1月26日	水	6:45	○	歩	35	40	40	45	45	205	5	41.0	
1月27日	木	6:45	○	歩	40	35	35	30	45	185	5	37.0	
1月28日	金	6:40	△	歩	35	40	45	30	40	160	5	32.0	2の1交流一人参加30分
1月31日	日	6:50	△	歩	35	35	45	40		155	5	31.0	

## ② 学習面での変化

### 【エピソード6】

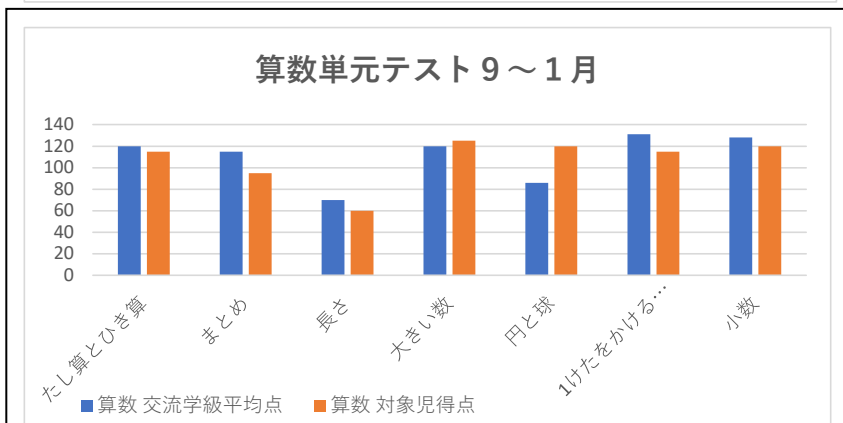
前期の交流学級の単元テスト平均に対象児の得点を付けたグラフを入れる。大体60%程度の達成。



#### 単元テスト「冬眠する動物たち」



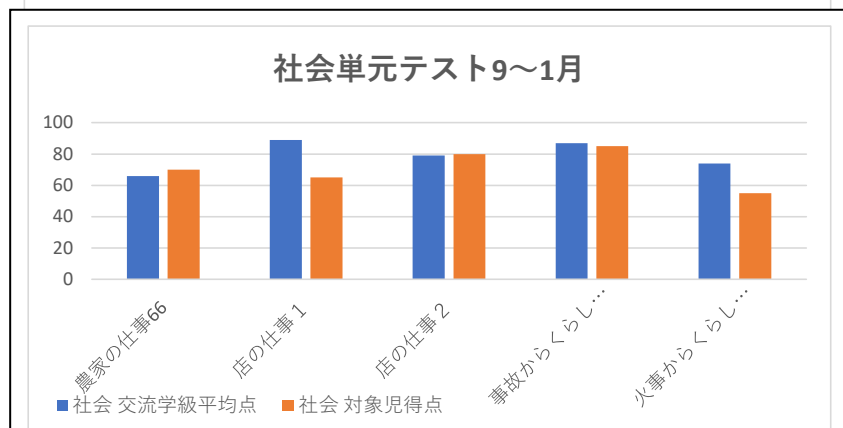
読解問題の大体は解答できる。



カイケツ下敷きを使うと、文字のゆがみによる間違いが減らせる。

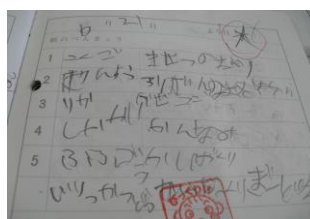


位を揃え、繰り上がり・繰り下がり  
の数を所定の場所にかけて、使  
わなくても解ける。

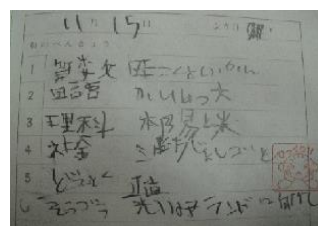


「店ではたらく人」学習の大体  
を理解している。

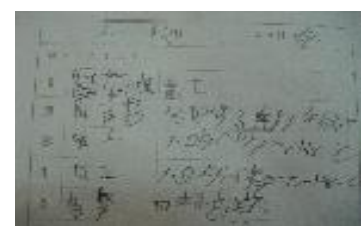
### 【エ



6月下旬:すべて平仮名に



11月中旬:熟語として認知



2月上旬:判読可能な字形

### ③ 行動面での変化

#### 【エピソード8】

給食後に予定を書く。対象児自身は、漢字をいくつか書けたかを励みにしているのだが、そこで大まかな明日の予定を掌握している。その後、放課後デイサービスのメニューをチェックして、「週末は香貫山に遠足だ。」などと言って楽しみにしている。

以下は交流時間の記録である。大きな不適応は見られず安定している。交流授業についても、自分で把握して、時に担任が忘れていたのを指摘している。交流学級の週報や予定黑板、休み時間に遊んだ友達からも、自分に必要な情報を得ている。

日付	給食	登校	1	2	3	4	5	6	交流数	授業数	下校後	備考
10月20日	木	少	歩	ジョギングデイ					5	5	放デイ	学校行事
10月21日	金	少	歩			道徳	体育	音楽	3	5	放デイ	
10月24日	月	少	歩			外国語	社会	図工	3	6	自宅	母国際大学病院へ
10月25日	火	少	歩				体育	理科	2	6	放デイ	
10月26日	水	普	歩		図工	音楽	理科	総合	4	5	放デイ	
10月27日	木	少	歩			総合	道徳	理科			放デイ	
10月28日	金	少	歩		音楽	算数	体育	総合			放デイ	
10月31日	月	少	歩		外国語	図工	図工				放デイ	
11月1日	火	少	歩			理科	社会	学活			放デイ	
11月2日	水	少	歩			音楽	理科	体育			放デイ	
11月4日	金	少	歩				体育	道徳			放デイ	
11月7日	月	少	歩				外国語	社会	図工		放デイ	
11月10日	木	少	歩	体育		総合	道徳	理科			放デイ	
11月11日	金	弁	歩				体育	音楽			放デイ	
11月14日	月		歩			外国語	社会	図工				

## 【今後の見通し～通常級への移籍を見通して～】

### ① 言語・コミュニケーション

- ・支援学級に比べて、集団の人数が格段に増えるので、大勢との関わりに順応できていけるかを、交流時間を増やしながら経過観察・記録していく。
- ・現時点では、協力者が交流学級担任で、対象児とは特別な関係性を築いている。教諭は、特別支援学級の経験があり、校内研修の「対話的で深い学び」「多様性の強みと弱み」「ICTをどう個別最適化に生かすか」といった実践に取り組んでいる。そうした学級経営から、対象児が進んで交流に参加していくのだと思われる。この恵まれた機会を対象児にとっての伸びにつなげたい。



## ② 学習

文字の書きの苦手さは、相当長期的な目標で進めていく。対象児が不利益を被らない程度の、読み手に伝わる書字をめざすが、その場合に、他の子供達と比べて酷く落ち込むような心理状態にならないように、対象児自身が自分の特性を理解することと、その特性を理解してくれる仲間を増やしていく。

## ③ 生活・活動

最近、弟(小学1年)の影響もあって、自宅での身支度が以前より改善しつつある。しかし、自分で計画を立てて遂行していこうというのは苦手であるので、計画を一緒に立てて、見通しをもって生活するメリットを感じて、習慣づけていく。